

FY2024.6 1Q決算発表 FAQ

Marketplace

Q1. Fintechとのシナジー創出の状況について教えてほしい。

A1. メルカードの発行枚数は順調に伸長し、200万枚を突破している。初期の段階ではあるが、「メルカード」によるARPU向上に伴うGMV増加が確認できていることに加え、出品増加への寄与や外部の決済代行業者に支払う決済手数料削減などの効果も見え始めており、更なるシナジーの創出を目指していく。

Q2. GMV成長に向けた注力施策の進捗は？

A2. 越境取引は連携企業数が2023年6月末時点の10社から10月末時点で50社に増加（[連携企業一覧](#)）したことに加え、連携企業との効果的な共同キャンペーンの実施により、好調に進捗した。

カテゴリー強化においては、スマートフォン新機種発売に合わせてデータ消去サービスや手数料還元キャンペーンを行い、期間限定でスマートフォンの出品に特化した「メルカリ教室」を開催するなど、需要に連動したマーケティング施策を開始した。初速ではあるが、これらの施策が出品ハードルの低減に繋がり、スマートフォン出品数の増加に寄与している。プロダクトにおいては、WEBで「あと払い」を開始するなど、引き続きAppとの機能差解消に注力した。また、新配送サービス「ゆうパケットポストmini」や「まとめ買い」機能、取引メッセージの定型文機能を実装するなど、中長期の成長を見据えたUX改善を推進した。

Fintech

Q3. 債権残高が増加しているが、資金調達の方針について教えてほしい。

A3. Creditサービス提供初期より特定の金融機関と債権流動化を実施しており、FY2023.6からは企業与信でなく与信債権自体の信用力により資金調達が可能なノンリコース形式での調達を開始した。FY2024.6 1Qはノンリコース形式で200億円の追加調達を実施済み（FY2024.6 1Q末時点残高で632億円）であり、今後もCreditサービスの成長に伴い、ノンリコース形式での債権流動化を中心に、資金調達手法の多様化を進めていく方針である。（詳細は、決算説明資料P.38に記載）

US

Q4. 赤字額が縮小傾向だが、今後の見通しについて教えてほしい。

A4. 費用の見直しや厳選した投資の実施等、筋肉質な経営を行ったことで、FY2024.6 1Qも調整後営業損失はYoYで大幅に改善した。一方で、引き続き中長期的な成長に資する投資は規律の範囲で行っていく方針である。2Q以降も季節性等の影響による変動が想定されるが、FY2023.6通期決算で発表した通り、FY2023.6下期の水準から大幅な赤字の増加は想定しておらず、方針に変更はない。

Q5. Z世代の獲得に向けた取り組みの進捗を教えてほしい。

A5. 出品の簡便化や対面取引を含めた新たな取引手法の開拓など、Z世代へのアプローチ強化に向けて検討や開発を行っており、FY2024.6を通じて具体的な機能のリリースを進める予定である。

免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社がその実現を約束する趣旨のものではありません。

以上